

2022年9月11日 午前礼拝  
「神のかたち」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

**創世記 1:26~31**

26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」

27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、全治の上にあって、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。それがあなたがたの食物となる。」

30 また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地をはうすべてのもので、いのちの息のあるもののために、食物として、すべての緑の草を与える。」

31 神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

【説教要約】

創世記 1 章には、世界の創造が豊かに描かれています。世界はただ、神様のみこころによって造られ、それゆえに「良いもの」として造られたのです。

神様は6日かけて世界を造り、その日ごとに「良い」と思われました。

人が造られたのは、創造の最後です。人を、神様は特別な存在として造られました。「神のかたち」に造ったと書いてあります。この「神のかたち」に注目することで、私たちは何のために生まれ、生きるのか知ることができます。

**①神のかたちと支配**

26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」

27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

**創世記 1 : 26 - 28**

神様は人を、世界の冠として造られました。6日かけて造られた「良い」世界を人が守るようになされたのです。

なぜ人を世界を治める立場に置かれたのか。それは人が「神のかたち」だったからです。人

を見れば、「神様がどういとお方が分かる」ということです。人はもともと、「その人を見るだけで、神様がどのようなお方か、どんなにすばらしいお方が分かる」存在でした。人を含めて、この世界全体は「神様がどのようなお方が味わえる作品」だったのです。

「支配」という言葉を誤用して、「自分の思い通りに世界を扱ってよい」と思われた時期がありました。しかし、この「支配」は「神のかたち」である人間が支配するのです。ちょうど神様が私たちや世界を支配していると聖書で表現されるように、神様のように世界を治めることが求められていたのです。

神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。

### 創世記 2 : 15

本来、「支配する」ことは思い通りにすることではなく、「相手が豊かになるように仕え、守ること」だと分かります。

しかし、人を造ってくださった方に反抗したとき、「神のかたち」は壊れました。

6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。

### 創世記 3 : 6-7

もともと、神様の素晴らしさを反映する存在として造られたのに、その神様に反抗し、人は造られた目的と矛盾した生き方をするようになりました。神様の栄光を反映するのではなく、自分のために生きるようになったのです。

エデンの園がなぜ「良い」と言われていたか。それは神様の性質が反映されていたからです。見れば、「神様はなんと素晴らしいのだろう」と分かる作品だったからです。

しかし、罪を犯したため人は、「あの人を見れば神様の素晴らしさが分かる」存在ではなくなりました。神様の栄光を現せなくなったので、「良い」場所にいることはできなくなりました。この矛盾した人生を、聖書は「さまよっている人生」と言います。

私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。

### イザヤ 53 : 6a

イエス様は、神様から離れた私たちを探しにこの地上に来てくださいました。もう一度、「神のかたち」を回復するためです。

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

### ルカ 19 : 10

私たちは、自分の力で「神のかたち」を回復することはできません。私たちの体も心も罪の支配にあるからです。

聖書は、イエス様こそ「神のかたち」だと言います。

13 神は、私たちを暗やみの压制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

14 この御子のうちにあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

**コロサイ 1 : 13 - 15**

イエス様を見れば、神様がどのようなお方か分かるというのです。イエス様の選択、生き方のすべてが神様の素晴らしさを表しています。

「神のかたち」の最たるものは、自分から罪を犯し、自分から神から離れて行った罪人のために、天を離れて自分のいのちを犠牲にしたことです。

この姿が、本当の支配者の治め方なのです。

神は、私たちを暗やみの压制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

**コロサイ 1 : 13**

イエス様を信じた人は、キリストの支配に移ったと書いてあります。これは人間の力による支配とは違い、自業自得な者のためにいのちを捨てる、愛による支配なのです。これが「神のかたち」です。

もしイエス様を信じるなら、その時からこのキリストの支配に移されます。キリストは、何があってもクリスチャンを見捨てることはありません。「神のかたち」を壊し、神様のために何の役にも立たない者のためにいのちを捨てるお方です。いったい何が、キリストの愛から私たちを引き離せるのでしょうか。

7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。

8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

**ローマ 5 : 7 - 8**

## ② 神のかたちと結婚

また、「神のかたち」として男女が造られました。

神である主は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

**創世記 2 : 18**

なぜ男女が必要だったか。それは、「神様がどのようなお方であるか」男女の愛を見れば明らかだったからです。

神様は、三位一体の神様です。この世界ができる前から、お一人の神様ですが、三つの人格を持っておられ、互いに愛し合っておられます。これは、言葉では言い表せませんし、人には理解し切れない愛の関係です。

しかし神様は、人間に理解し切れない愛を「見れば分かる」存在として男女を造られました。

それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。

#### **創世記 2 : 2 4**

二人のまったく違う存在が、愛によって一人の人のようになるのです。結婚は、神様がどのようなお方か分かるために、神様が造られました。

しかし、罪を犯したために、人は神の愛を反映できなくなりました。

11 すると、仰せになった。「あなたが裸であるのを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」

12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

#### **創世記 3 : 1 1 - 1 2**

自分を守るために、相手を傷つけるようになったのです。

その私たちを罪から救うため、イエス様は来てくださいました。

13 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

14 この御子のうちにあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

#### **コロサイ 1 : 1 3 - 1 5**

それはちょうど、妻のためにいのちを捨てる、本来の夫のようです。

イエス様は、ご自分の死によって、もう一度神様の愛の関係に私たちを入れてくださいました。

22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。

23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。

26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」

**ヨハネ17：22-23、26**

そして、やがて結婚の本当の姿である、キリストが私たちを伴侶としてくださる時が来ます。

25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。

29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。

30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

31 「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」

32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

**エペソ5：25-32**

これらのことから何が言えるでしょうか。イエス様こそ、完全な神のかたちであるということです。その神のかたちとは、自分の幸せをすべて捨てて、私たちを捜しに来られた愛に現れています。

私たちが何者であっても、イエス様にとっては関係ないのです。信じた人を、イエス様は自分のからだのように愛してくださるのだと書いてあります。

私たちは、このイエス様によってでしか救われたいし、神様を知りたいと思うなら、イエス様を見るしかありません。イエス様の愛が、自分のためであるとわかるとき、私たちもまた壊れた神のかたちが回復されるのです。